

大西が吹く

風速10メートルを超える北西の季節風を
漁師は大西と呼んで喜んで迎えます。

満州から実りを乗せてくると真剣に信じて
いる様です。遥かなる大地に思いを馳せる
のは我々の太古の記憶が呼び起こすものな
のかもしれません。

ここ何年も大西は吹かず冬らしからぬ冬で
したが、本来対馬の冬は水飛沫も凍り、沖か
ら戻る頃には氷柱が出来ていた程です。
銭湯から帰る時手拭いは凍ってカチカチに
なったそうです。

漁師はこの季節、寒い寒いと無線で話しな
がら、どこか嬉しそうなのです。

mob会員へのお誘い

応援会員の年会費と返礼品の回数

Sコース・ガヤモバ海

120,000円/年 4回

Gコース・ガヤモバ土

30,000円/年 2回

Aコース・ガヤモバ水

10,000円/年 1回

振込先

九州信用漁業協同組合連合会

長崎統括支店(県コード9489 店番004)

普通口座 口座番号 5100113

特定非営利活動法人賀谷藻場保全会

※NPO法人賀谷藻場保全会の活動は
応援団体であるmob会員の皆様の年
会費にて成り立っております。



<https://gayamoba-2.jimdosite.com/>



[gayamoba](https://www.facebook.com/gayamoba)



[@gachimoba](https://twitter.com/gachimoba)



[gaya.mob](https://www.instagram.com/gaya.mob)



[gayamob](https://line.me/tv/gayamob)

0920-55-0246

gayamobahozenkai@gmail.com



当パンフレットは環境省の令和5年度
「令和の里海づくり」モデル事業で作成しました

mob通信 7
2024年冬号



素晴らしき今日を
あなたとともに



発行
NPO法人賀谷藻場保全会

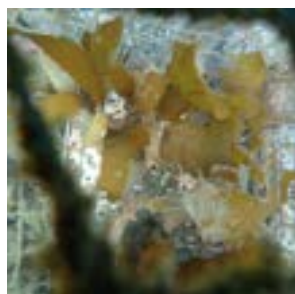




冬の藻場モニタリング

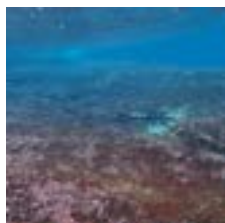
保護枠に入れて生育を観察しているカジメ類種苗は、アラメについては成長が確認できていませんが、クロメ、カジメ共に順調に生育しています。特にクロメについては、生育して一年後には既にタネ（遊走子）を飛ばしている様に見えます。

今年から、対馬でのカジメの増殖事業が始まりました。この増殖事業で使う母藻として、賀谷で保護しているカジメが使われることになりました。結果がでるのはまだ先ですが、カジメが増えることを願っています。



2022年に投入した保護枠の中のカジメ カジメ増殖事業の様子

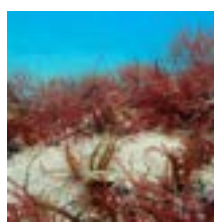
賀谷の海の中の様子は、また大きく変化しました。磯焼けの後、海底の岩場は、石灰藻に覆われているところが多かったのですが、そこにフクロノリが覆いかぶさるようになりました。さらに、台風などの荒波によってフクロノリが剥がされると、今度は石灰藻ごと剥がれ落ち、岩肌が復活。そして、テングサなどの海藻類が芽吹き始めています。



石灰藻



フクロノリ



テングサ



フノリと文化財

賀谷のフノリの見学に、文化庁、大脇萬蔵商店、東京文化財研究所、国宝修理装演師連盟の皆様が賀谷にお越しくださいました！

フノリは文化財の修復に不可欠な素材なんだそうです。フノリで作ったノリの特徴は、しっかりとくっつくのですが、水で流すとキレイに流れ落ちて剥がすことができるそうです。新品の筆を固めているのも、フノリだそうです。

文化財の絵画や古文書の修復の時には、裏側から補修するために、一時的に表面から紙を当てて仮止めをするそうです。この仮止めは、最後にはキレイに剥がさないといけないので、フノリで接着するそうです。宗家文書の修復にも使われているそうですよ！



賀谷のフノリ



フノリを使った修復作業

この修復技術は、平安時代の頃から続いている方法です。様々な絵画などで100年に一度、修復が行われており、次世代に引き継ぐために、脈々と継承されてきました。

フノリの成分ですが、まだ解明されておらず、フノリの代わりになるノリは存在しないそうです。そんな中、フノリも水揚げ量は年々減少しています。

賀谷藻場保全会も、藻場環境とそこに紐付く文化の担い手として、フノリの持続的な利用に協力していきたいと思っています。

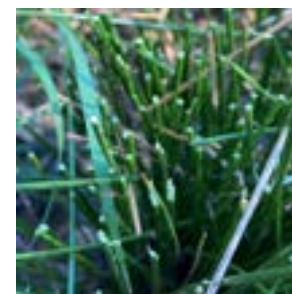


里山保全活動

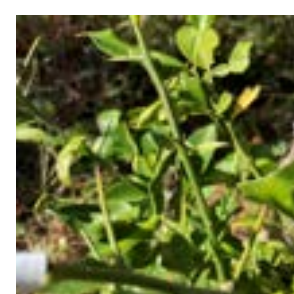
植林地では、地下水による山と海のつながりの再生も目的として活動をしています。植林をした後も、山がヤブに戻らないように管理をしています。今年は新しく「風の草刈り」という管理方法をやってみることにしました。

「風の草刈り」とは、植物が風で揺れる高さで草を刈る草刈りです。風で揺れる高さで切ると、植物にストレスがかからず、根をがっちりと張らないので、土が固くならなかったり、生えている植物の種類が増えたりします。

実際に植物を握ってゆすってみると、ある高さで揺れ方が変わります。まだまだ試行錯誤中ですが、一本一本植物を観察しながらの草刈りをする、植林地にも、色々な植物や昆虫がいることに気づきました。

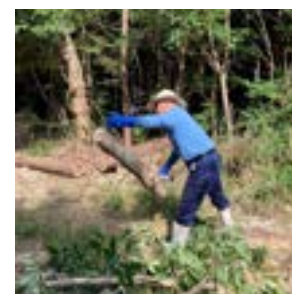


風の草刈りの実践



ユズの葉を食べる
アゲハチョウの幼虫

今年の植林に向けた準備も進んでいます。新しいヤブを切り開いて整備中です。切り出した枝は今年もアオリイカのための産卵床「イカ柴」にしています。



山でのヤブ切り作業



完成したイカ柴